

1979年

中米が外交関係樹立、大平首相訪中など、中国をめぐる国際環境は比較的安定していた。当協会も前年の平和友好条約締結を受け、交流を一層拡大発展させていたが、創立以来理事長、会長としての活動を牽引してきた中島健蔵氏が、六月十一日に逝去。協会は深い悲しみを乗り越え、その遺志を体してさらに進むこととなった。五月には、團伊玖磨団長によるオペラ「夕鶴」の訪中公演、来日した周揚団長ら中国作家代表団は各地で文芸講演会に臨むなど、交流が高揚を見せていた。



オペラ「夕鶴」初の訪中公演。舞台に上がり、團伊玖磨団長(左)、主演の伊藤京子氏(右)らに公演の成功を祝う鄧穎超全人代副委員長

——一九七九年五月十三日

△七九年の主な交流

◎1月 「中国現代絵画展」福岡展開幕、当協会、日本経済新聞社など主催。胡喬木中国社会科学学院院长、日本学士院創立百周年記念活動に出席後、谷羽夫人、朱佳木、唐月梅の諸氏とともに当協会の招請で日本各地を訪問。

◎2月 日本超音波医学術代表团(仁村泰治団長・日本超音波医学学会会長、大塚浄秘書長、福田守道、中野仁雄、内田六郎の諸氏) 訪中。日本書道家友好訪中団(梅舒適団長、小山草堂、嶋溪翠、神澤知丘、小林睦水、尾崎栄巖、尾崎蒼石、橋詰桃郎らの諸氏) 訪中。「日本経済新聞社日中友好の翼」(団長・吉田敏男取締役事業本部長) 九十六名訪中。

◎3月 「敦煌—壁画芸術と井上靖の詩情展」(大丸東京店)開幕。当協会、



「中日友好の船訪日団」団長として来日した廖承志氏(左)は、中島健蔵会長(右)をねんごろに見舞った。白土吾夫氏が同席

——一九七九年五月二十日 東京・中島家

毎日新聞社主催。「中国シルクロード文物展」を東京国立博物館で開催。開幕式に三笠宮殿下、大平正芳首相、同

展中国代表団(王治秋団長、郭芳為、史樹青、馮先銘、金鳳吉の諸氏)が出席。当協会、読売新聞社、大阪商工会議所主催。林林中国人民対外友好協会副会長が王廷芳、鄭民欽両氏と来日。中国社会科学院代表团(于光遠団長・副院長、李彦秘書長、張友漁、吳沢霖、傅懋勳、董輔礪、劉明夫、王叔文、李克世、方昌傑の諸氏) 来日。

◎4月 東京で全国人民代表大会代表団(団長・鄧穎超副委員長) 歓迎会。中国電子体育器材視察団(李凱亭団長) 来日。「講談社友好の翼訪中団」(団長・足沢禎吉専務) 百二十三名訪中。名古屋電気高等学校バスケットボール選手



胡喬木中国社会科学学院院长(右一)、谷羽夫人(右二)は、井上靖氏宅を訪問、井上靖氏、ふみ夫人に記念の書を贈った

——一九七九年一月二十五日 東京

団(後藤淳団長) 訪中。

◎5月 オペラ「夕鶴」訪中公演団(團伊玖磨団長、團和子、小田健也、伊藤京子、中澤桂、森敏孝、栗林義信、小田清の諸氏ら二十五名) 北京、天津、上海で十二回公演。中国作家代表团(周揚団長、蘇靈揚、歐陽山、姚雪垠、馮牧、梁斌、楊沫、柯岩、林紹綱秘書、通訊・周斌の諸氏) 来日、東京、名古屋、京都で文芸講演会(当協会と講談社主催。日本女流美術工芸家訪中団(大久保婦久子団長) 訪中。映画「天平の甕」(原作・井上靖、監督・熊井啓) 東京で製作発表会、当協会が製作協力。日本「敦煌美術」研究者友好訪中団(三上次男団長、川口久雄、小林正樹、佐藤正之、山崎武敏、岡崎敬、中根寛、金岡照光、佐々木達夫、原信之秘書の諸氏) 訪中。中日友好の船訪日団(団長・廖承志中日友好協会会長) 歓迎会。

◎6月 水上勉氏一行(水上勉、柳田聖山、柳田静江、佐藤優、木村美智子の諸氏) 訪中。中島健蔵会長逝去。日本「クラブ関東」訪中団(林龍男団長) 訪中。ピアニスト劉詩昆氏来日。

◎7月 「現代日本絵画展」北京で開催。当協会と国際芸術文化振興会、中国展覽公司の主催。同展代表团(野呂恭一名誉団長、河北倫明団長、本間正義、櫻井義晃、白土吾夫各副団長、橋本明治、佐藤太清、加藤東一、堂本元次、平川敏夫、麻田鷹司、後藤純男、奥谷博ら諸氏) 訪中。同展はハルビン、上海でも開催。日本出版代表团(相賀

徹夫団長・小学館社長、白土吾夫秘書長、磯辨蔵(平凡社)、久保田裕(講談社)、櫻原雅春(文藝春秋)、渡辺次郎(岩波書店)、富岡勇吉(潮出版社)、荒井修(徳間書店)、石川晴彦(主婦の友社)の諸氏) 訪中。愛知工業大学野球選手団(竹松英夫団長) 訪中。

◎8月 当協会常任顧問の井上靖氏一行(宮川寅雄理事長、圓城寺次郎日本経済新聞社会長、樋口隆康京大教授、佐藤純子、横川健の諸氏)が新疆ウイグル自治区各地を訪問。中国京劇院訪日団(賀敬之団長、蔡子民副団長ら八



中国作家代表団14年ぶりに来日

日中文化交流協会と講談社は、一行を迎え、東京、京都、名古屋で文芸講演会を開いた。井上靖歓迎委員長(右二)、服部敏幸講談社副社長(右一)同席のもと、あいさつを述べる周揚団長 — 一九七九年五月十日 東京

十五名) 来日、国際交流基金等が主催し当協会等が協力、東京、神戸、大阪、福岡、名古屋で公演。日本労働衛生研究者訪中団(池田正之団長・東北大学教授、西宮公三、原一郎、堀口俊一、小



来日した林氏(右一)を歓迎する(左から)尾崎秀樹、阪田寛夫、城山三郎の諸氏

—1979年4月4日 東京



雲南各地を訪ねた日本民族学者代表団。白族の村にて、梅棹忠夫団長(中)、白鳥芳郎氏(右)。当時は昆明から麗江、大理とすべて車で移動した

—1979年11月26日 雲南省大理

木和孝、竹内康浩、杉本寛治の諸氏) 訪中。日本「新疆文物研究者」訪中団(西山英雄団長、河合健二、堀池春峰、植村慶富、福本達雄、弘瀬裕、牛山純一、高橋弦志、光永俊介、高瀬善明、鳴海正泰、池田正明、阿部充、野口佐都子、鹿討典子、中村裕、曲子明良、西山薫らの諸氏) 訪中。日本高校囲碁代表団(石原俊輝団長) 訪中。

◎9月 日本社会学者代表団(都留重人団長・当協会常任理事、白土吾夫秘書長、西嶋定生、伊東光晴、山本草二、松尾浩也、宇澤弘文、宮川公男、森島昭夫、木村美智子の諸氏) 訪中。日本微生物学術代表団(有馬啓団長・東京大学名誉教授、長谷川武治、池田庸之助、角田俊直、千畑一郎、鈴木武夫、戸室道子秘書の諸氏) 訪中。日本山岳会チヨモランマ偵察隊(斎藤惇正隊長) 訪中。日本印刷代表団(澤村嘉一団長・凸版印刷社長、井上英一顧問(東工大)、樋口善典(共同印刷)、杉浦博(図書印刷)、清水浩(東京印書館)、渡邊正慶(東京コンピュータ・タイプ)、伊勢崎幸一(光村原色版印刷所)、井本商三(凸版印刷中央研究所)、和田英三(和田製本工業)の諸氏) 訪中。奈良県青年友好訪中団(安本達司団長) 訪中。

◎10月 日中文化交流協会代表団(宮川寅雄団長、野村浩一副団長、白土吾夫秘書長、中村登、中川順、佐藤純子、野村喬、山崎朋子、山本吉左右、小谷野信枝秘書の諸氏) 訪中。中国オリピック委員会代表団(宋中団長) 来日。

中国陸球選手団(于再清団長) 来日。◎11月 日本「民族学者」代表団(梅棹忠夫団長、鈴木二郎、白鳥芳郎、岩田慶治、米山俊直、木村美智子の諸氏) 訪中。小学館出版代表団(相賀徹夫団長) 訪中。正力亨巨人軍オーナー一行訪中。「国宝鑑真和上像中国展」協議団(佐伯洋、白土吾夫、木村仗治、鷲塚泰光ら諸氏) 訪中。

◎12月 第二次日本経済新聞社日中友好の翼(内田篤登団長) 訪中。

創立以来二十三年間理事長、会長を務めた中島健蔵氏を失った。何ら報われることを期待せず、自己の利益のためでなく、文字通り無私の手をこめて、日中間の友好と文化交流の促進に身を挺す、これが氏の真骨頂だった。二十三年のうち中国と国交のない、困難な時代が十六年、協会の存続と氏の存在は切り離せなかった。ケンチ(氏の愛称)がやってくるから、中島さんがやってくるから、中島先生がおやりになっているから……、協会に集う輪がどれほど拡がったことか。「求心力」とは、氏のためにある言葉のようだった。喪失感は大きかったが、氏を中心に志ある人々の力を結集した協会はすでに揺るぎない基盤をもっていた。「万事、順調か? 問題は、ないか? しつかり、やってくれ。わるいなあ!」、白土吾夫氏が聞いた中島氏の最後の言葉である。事務局は泣きながら青山葬斎場で初めての協会葬を準備した。(一九九九)

創立以来二十三年間理事長、会長を務めた中島健蔵氏を失った。何ら報われることを期待せず、自己の利益のためでなく、文字通り無私の手をこめて、日中間の友好と文化交流の促進に身を挺す、これが氏の真骨頂だった。二十三年のうち中国と国交のない、困難な時代が十六年、協会の存続と氏の存在は切り離せなかった。ケンチ(氏の愛称)がやってくるから、中島さんがやってくるから、中島先生がおやりになっているから……、協会に集う輪がどれほど拡がったことか。「求心力」とは、氏のためにある言葉のようだった。喪失感は大きかったが、氏を中心に志ある人々の力を結集した協会はすでに揺るぎない基盤をもっていた。「万事、順調か? 問題は、ないか? しつかり、やってくれ。わるいなあ!」、白土吾夫氏が聞いた中島氏の最後の言葉である。事務局は泣きながら青山葬斎場で初めての協会葬を準備した。(一九九九)

1980年

中島会長の一周忌を機会に、井上靖氏が会長に就任。「国宝鑑真和上像中国展」、「北京原人展」、チヨモランマ登頂、画期的な交流が行なわれた。五月に華国鋒総理が来日、

奈良市、毎日新聞社主催。その後大阪、名古屋、福岡、奈良で開催。映画「天平の甕」（井上靖原作、熊井啓監督、東京でロードショー後、全国東宝系で一斉公開。中国映画工作組（汪洋組長）来日。

秘書の諸氏）訪中。日本スピードスケート選手団（橋本甲四郎団長）訪中。◎4月「北京原人展」議定書調印（為郷恒淳読売新聞社専務、白土吾夫、木村美智子、大田陽一の諸氏）訪中。「日本国宝鑑真和上像中国展」揚州：大明寺で開幕、主催、唐招提寺、当協会、朝日放送。開幕記念法要に寺院関係派遣団（森本孝順名誉団長・唐招提寺長老、清水公昭団長・東大寺別当、多川乗俊興福寺管主、松本実道西大寺長老、河野清晃大安寺管主、小松道圓泉涌寺長老らの諸氏）が出席。日本演劇家訪中団（東野英治郎団長、東野禮子、西村俊一、中谷一郎、逸見稔、郡進剛、森誠一、大和田伸也、五大路子、中野暁秘書の諸氏）訪中。中国作家代表团（巴金団長、謝冰心副団長ら）歓迎会。

北京の中国歴史博物館と法源寺で展示、開幕式に当協会代表团（宮川寅雄理事長、東山魁夷常任理事、白土吾夫常任理事の諸氏）、朝日放送代表团（原清社長、原かをる夫人、佐伯洋副社長、木村美智子当協会事務局局長補佐の諸氏）が出席。一行は鄧小平副総理と会見。「草月会」代表团（勅使河原宏団長、佐藤純子秘書長）訪中、北京と上海でデモンストレーション。人間国宝・安部榮四郎「手漉ぎ和紙」展北京で開催。中国現代版画展（東京・池袋・りゅう画廊）開催、当協会主催。中国男子バレーボール代表团（孫志安団長）来日。華国鋒総理歓迎会を当協会など日中友好団体が開催。

官民挙げての歓迎は日中関係の安定ぶりをうかがわせたが、直後に大平首相が急逝、鈴木内閣の成立となった。中国も華国鋒総理が辞任、趙紫陽氏が総理に就任。モスクワオリンピックに、日本は多くの国とともに不参加。NHKの特集番組「シルクロード」が始まり、ブームに火を付けた。

◎2月 中国演劇家代表团（于伶団長、趙尋副団長、劉厚生、朱琳、方掬芬、夏永宏の諸氏）来日。「一明・清・現代中国の書展」（東京・伊勢丹美術館）開催、当協会、国際芸術文化振興会主催。その後福岡、大阪で開催。愛知工業大学卓球選手団（後藤淳団長）訪中。◎3月 中国古陶磁研究者友好訪中団（三上次男団長、三上登美子夫人、佐久間重男副団長、吉田章一郎、護雅夫、護道子、榑崎彰一、宇都木章、田村晃一、西田宏子、佐々木達夫、戸室道子

日本女子ソフトボール選手団（御喜正団長）訪中。中国・日本文学研究者考察組（呉介民組長、李徳純、解莉莉の諸氏）来日。◎5月 日本山岳会チヨモランマ登山隊（西堀栄三郎総隊長ら総勢四十一名）北東稜、未踏の北壁の二ルータから登頂に成功。「日本国宝鑑真和上像中国展」北京展開催。揚州に続き

◎6月 井上靖氏が会長に就任。故中島健蔵会長をしのぶ会（一周忌：当協会主催）。中国映画代表团（司徒慧敏団長、李秀嫻夫人、孟広鈞秘書長、李俊、鄭荃、宋曉英、陳篤忱の諸氏）来日。◎7月 「北京原人展」東京・国立科学博物館で開催。北京原人化石類の初の海外展示、主催：当協会、読売新聞社など。開幕式に常陸宮殿下、中国科学院代表团（趙北克団長、吳汝康、賈蘭坡、黄万波、時墨庄、柳修彰の諸氏）が出席。同展は大阪、名古屋、北九州でも開催。中国武術代表团（張文広団長）来日。中国高校囲碁代表团（魏振鐸団長）来日。「チヨモランマ登頂展」（銀座・松坂屋）。

八〇年の主な交流

◎1月 「中国・西安古代金石拓本と壁画展」（日本橋・三越本店 開催、当協

会、奈良市、毎日新聞社主催。その後大阪、名古屋、福岡、奈良で開催。映画「天平の甕」（井上靖原作、熊井啓監督、東京でロードショー後、全国東宝系で一斉公開。中国映画工作組（汪洋組長）来日。

北京の中国歴史博物館と法源寺で展示、開幕式に当協会代表团（宮川寅雄理事長、東山魁夷常任理事、白土吾夫常任理事の諸氏）、朝日放送代表团（原清社長、原かをる夫人、佐伯洋副社長、木村美智子当協会事務局局長補佐の諸氏）が出席。一行は鄧小平副総理と会見。「草月会」代表团（勅使河原宏団長、佐藤純子秘書長）訪中、北京と上海でデモンストレーション。人間国宝・安部榮四郎「手漉ぎ和紙」展北京で開催。中国現代版画展（東京・池袋・りゅう画廊）開催、当協会主催。中国男子バレーボール代表团（孫志安団長）来日。華国鋒総理歓迎会を当協会など日中友好団体が開催。

◎8月 井上靖会長一行（井上靖、井上ふみ、中島京子、白土吾夫、佐藤純子の諸氏）訪中。日本「中国文物愛好



井上靖氏が日中文化交流協会の会長に就任した。故中島健蔵会長をしのぶ会で「皆さんのご支援の下に、中島さんの築いた道をけがさぬよう努力していきたい」と語る井上新会長
——一九八〇年六月十一日 東京



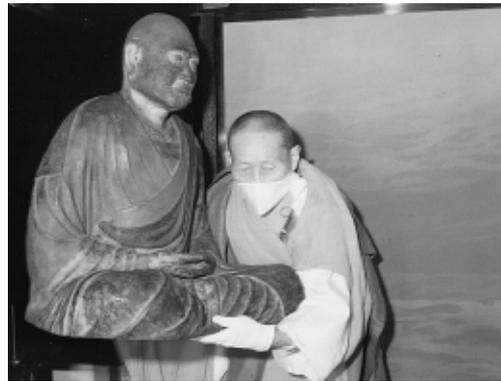
文革新後初めて来日した中国映画代表团の司徒慧敏団長(左一)らを歓迎する(右から)井上靖会長、宮川寅雄理事長、木下恵介、牛原虚彦両常任理事
——1980年6月6日 東京・歓迎レセプション

日本女子ソフトボール選手団（御喜正団長）訪中。中国・日本文学研究者考察組（呉介民組長、李徳純、解莉莉の諸氏）来日。◎5月 日本山岳会チヨモランマ登山隊（西堀栄三郎総隊長ら総勢四十一名）北東稜、未踏の北壁の二ルータから登頂に成功。「日本国宝鑑真和上像中国展」北京展開催。揚州に続き

◎8月 井上靖会長一行（井上靖、井上ふみ、中島京子、白土吾夫、佐藤純子の諸氏）訪中。日本「中国文物愛好



日本山岳会隊(日中文化交流協会、日本山岳会、読売新聞社、日本テレビ放送網などが主催)が5月3日と10日、世界最高峰チヨモランマの中国側北壁ルートからの登頂に成功した。登山史に輝く快挙であった



国宝鑑真和上像の中国展 揚州と北京で唐招提寺、日中文化交流協会、朝日放送の主催で鑑真和上像の「里帰り」が実現。中国へ向かうため森本孝順長老に抱かれて御厨子を出る和上像——一九八〇年四月 奈良・唐招提寺

者」友好訪中団(圓城寺次郎団長、伊部恭之助、平野文恵、谷村裕、谷村恭子、近藤道生、近藤良子、西田昭夫、坂本五郎、木村美智子の諸氏)訪中。巨人軍コーチの中村稔、国松彰両氏訪中。日本ヨットコーチ団(佐藤精知夫団長)訪中。日本新体操選手団(相場宏団長)訪中。日本高校卓球選手団(後藤淳団長)訪中。日本陸上競技選手団(白木信雄団長)訪中。新日鉄バレーボール選手団(加藤健団長)訪中。日本バスケットボール選手団(松井聡団長)訪中。中国卓球選手団(李富栄団長)来日。中国野球代表団(何振梁団長)来日。

◎9月 奈良県青年友好訪中団「希望のつばさ」(中政春団長)訪中。日本「外国文学研究者」代表団(高橋健二団長、佐伯彰一、木村浩、福田宏年、瀧田文彦、戸室道子の諸氏)訪中。中国出版代表団(曾彦修団長、範振江、崔之富、趙国良、王徳林、葉玉懿の諸氏)来日。中国科学院化学コンクリート考察組(葉作舟団長、高潔、呉静波の諸氏)来日。中国登山代表団(喬加欽団長)来日。中国陸上競技選手団(陳先団長)来日。中国ジュニアバレーボール選手団(趙斌団長)来日。日本自転車選手団(安井謙団長)訪中。日本庭園選手団(佐藤三郎団長)訪中。「南京博物院展」協議団(浅井岬一名古屋市助役、白土吾夫らの諸氏)訪中。中国射撃選手団(錢錦福団長)来日。日本バレーボール選手団(伊木正二団長)訪中。日本バドミントン選手団(小飼栄一団長)訪中。

◎10月 中国音楽家代表団(呂驥団長、孫慎副団長、黄翔鵬、鄭小瑛、桑桐、羅伝開、李毅之の諸氏)来日。東京で王炳南対外友協会会長歓迎パーティー。日本産業界代表団(圓城寺次郎団長、横山能久、緒方研二、皆川広宗、三鬼彰、樺原四郎、鈴木敏文、木村美智子の諸氏)訪中。日本書道家代表団(飯島春敬団長、飯島敬芳、續木湖山、田中凍雲、種谷扇舟、駒井鸞静らの諸氏)訪中。中国人民体育出版社・体育報社代表団(徐才団長)来日。日本法学者代表団(加藤一郎団長、野村好弘秘書長、金沢良雄、平野龍一、石井紫郎の諸氏)訪中。土浦日大高校バスケットボール選手団(山田秀彦団長)訪中。

◎11月 中国書道家代表団(舒同団長、朱丹、陳淑亮、頼少其、佟韋、王玉琢秘書の諸氏)来日。中国文化部文学芸術研究院代表団(白鷹団長、黎舟、郭乃安、董錫玖、陸風、孫維善、郎核、徐效民の諸氏)来日。日中文化交流協會代表団(宮川寅雄団長、山下静一顧問、白土吾夫秘書長、岡本隆三、北原篁山、佐藤純子、佐藤祥子の諸氏)訪中。中国体操選手団(陳鳳栄団長)来日。

◎12月 中国女子バレーボール選手団(張一沛団長)来日。フジタ工業サッカー選手団(藤田一暁団長)訪中。中国アイスホッケー選手団(于再清団長)来日。中国スピードスケート選手団(魯明団長)来日。

~~~~~

井上靖氏の歓迎のことばを受けて巴金氏がいさづちに立ち、先生をはじめ日本の作家は老舎の死を知り、作品「井上靖「壺」水上勉「こおろぎの壺」、開高健「玉碎ける」を発表してその死を悼んだが、自分たちは何もできなかった、このことについて恥じるばかりだ、ということを書いた。歓談の後、結びのあいさつに立った山本健吉氏は、巴金先生が当時どのような境遇に置かれていたかは皆知っているのですから、なにも恥じ入ることはありません、と述べた。歓迎パーティーでのスピーチにも、通り一遍ではない、心の通う会話ができれば、そんな雰囲気がかがえた。交流の積み重ねが、一挙に花開く時期、一周忌を迎えた中島前会長の遺志を受け継ぐべく、当協会の常任顧問だった井上靖氏が、会長に就任した意義は大きかった。